

令和の日本型学校教育における 「個別最適な学び」「協働的な学び」についての概念的考察

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 学長・教授

(基礎資料)

<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

中央教育審議会初等中等教育分科会『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(中間まとめ)』(2020年10月7日)

「令和の日本型学校教育」について

個別最適な学び + 協働的な学び



学びのハイブリッド化
(対面学習+ICTを利用した学習等)

本日の内容

- ① 「個別最適な学び」の用語は必要か
- ② 「対話的な学び」が実施された中でさらに「協働的な学び」は必要か？
- ③ 「個別最適な学び」の英訳について

本日の内容

- ① 「個別最適な学び」の用語は必要か
- ② 「対話的な学び」が実施された中でさらに「協働的な学び」は必要か？
- ③ 「個別最適な学び」の英訳について

新学習指導要領 (2020年~)

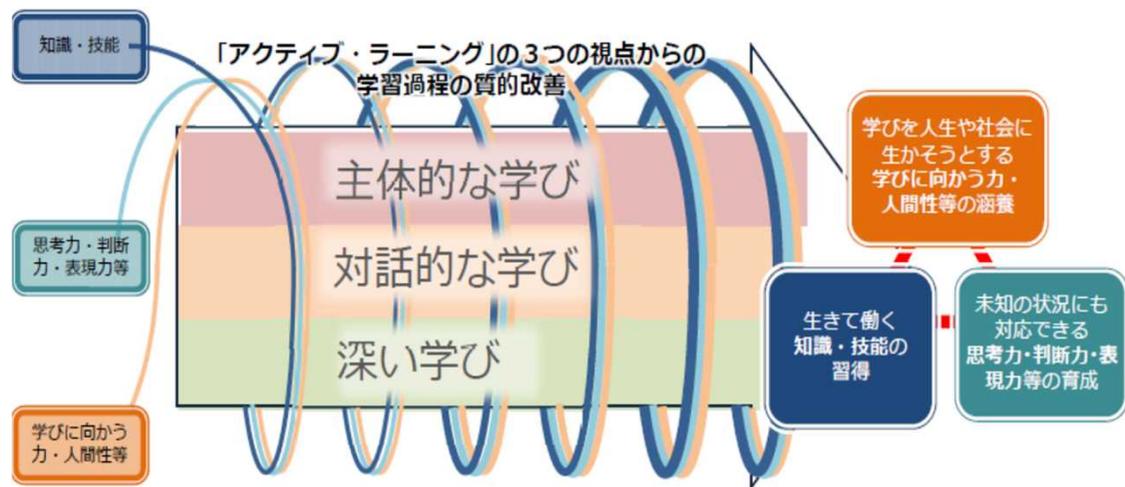
- ・ 資質・能力の三つの柱
- ・ 社会に開かれた教育課程
- ・ 主体的・対話的で深い学び

+

ICT利用

- ・ Society 5.0
- ・ OECD PISA調査 学校におけるICT利用の国際的な低さ (2019年)
- ・ GIGAスクール構想 (2019年)
- ・ 新型コロナウイルスの感染症 (2020年)

||



①個別最適な学び 個に応じた指導

- ・ 指導の個別化
- ・ 学習の個性化

②協働的な学び

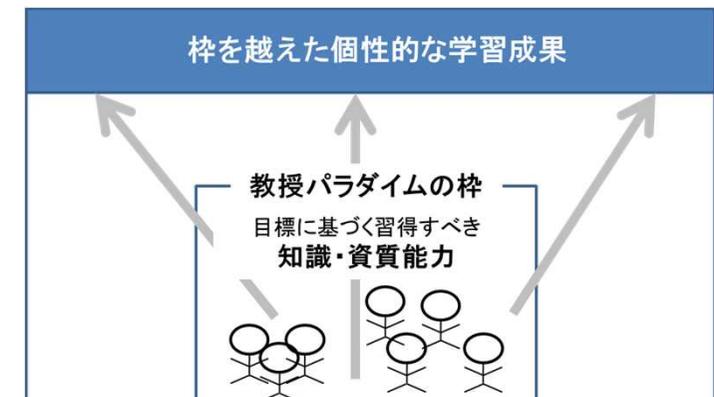
子供たちの多様化が一層進む中で、**全ての子供たちに基礎的・基本的な知識・技能等を確実に習得させるため**には、ICTも活用して教師の負担を抑えつつ、専門性の高い教師がより支援が必要な児童生徒により重点的な指導を行うことなどにより効果的な指導を実現し、子供たち一人一人の特性や学習進度 学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うとともに、子供たちに自ら学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら粘り強く取り組む態度を育成すること、つまり「**指導の個別化**」が必要である。

○また、基礎的・基本的な知識・技能や言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の**学習の基盤となる資質・能力等を土台として**専門性の高い教師が個々の子供に応じた学習活動を提供することで、幼児期からの様々な場を通じての体験活動から得た子供たちの興味・関心等に応じ、ICTも活用し、自ら学習を調整するなどしながら、**その子供ならではの**課題の設定、子供自身による情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う等、主体的に学習を最適化することを教師が促す「**学習の個性化**」も重要である。

○以上の「指導の個別化」と「学習の個性化」を教師視点から整理した概念が「**個に応じた指導**」であり、学習者視点から整理した概念が「**個別最適な学び**」と考えられる。

教授学習パラダイムの観点との対応

- 指導の個別化
→教授パラダイムに基づく個人差対応
- 学習の個性化
→学習パラダイムに基づく個性の伸張



*Tagg (2003) より作成 (溝上, 2020)

「**学習パラダイムは活動の場を拡げ、教授パラダイムを越えたところに私たちを移動させるのである**」

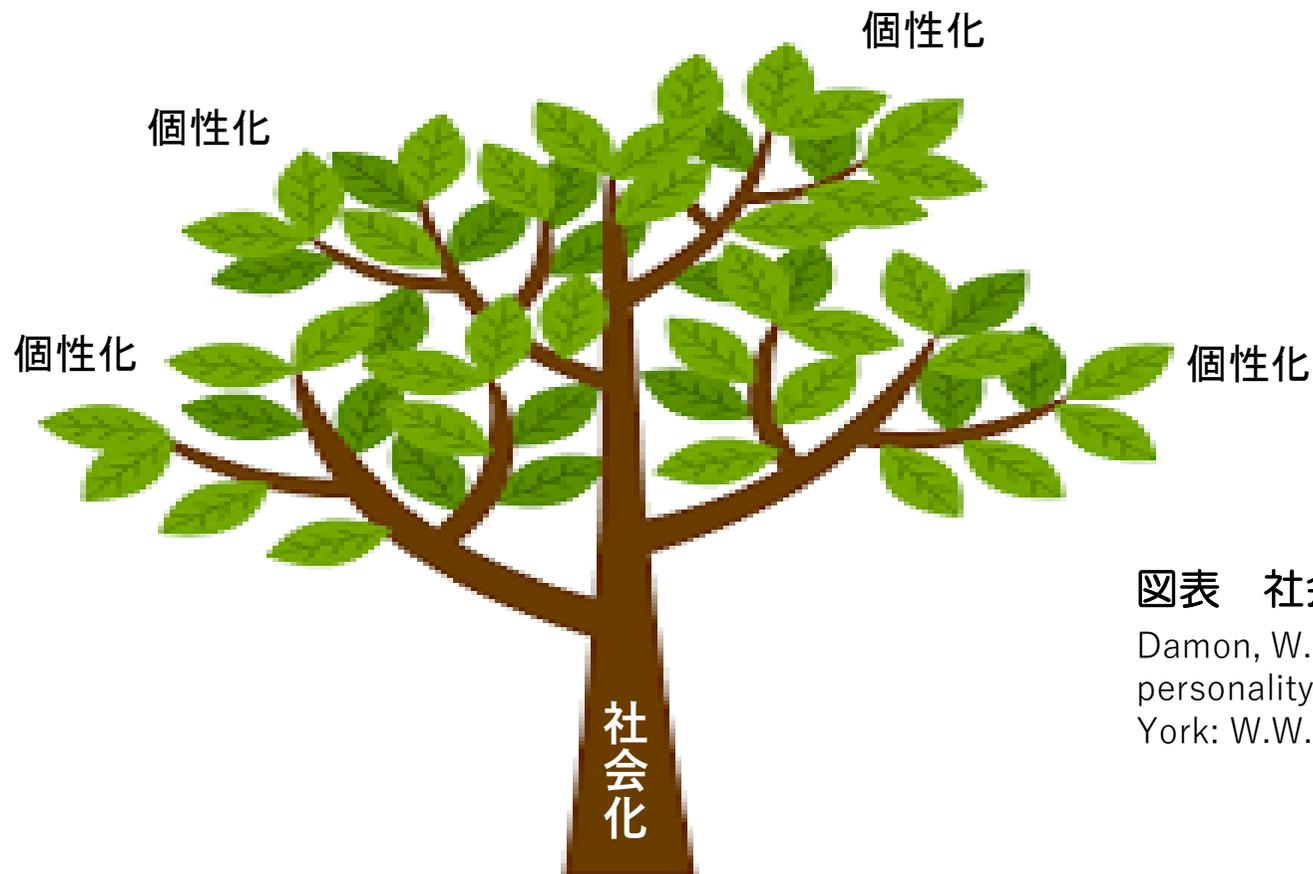
> Tagg, J. (2003). The learning paradigm college. Bolton, Massachusetts: Anker.

教授パラダイムを基礎としながら学習パラダイムへ転換する意義をよりクリアーに示す

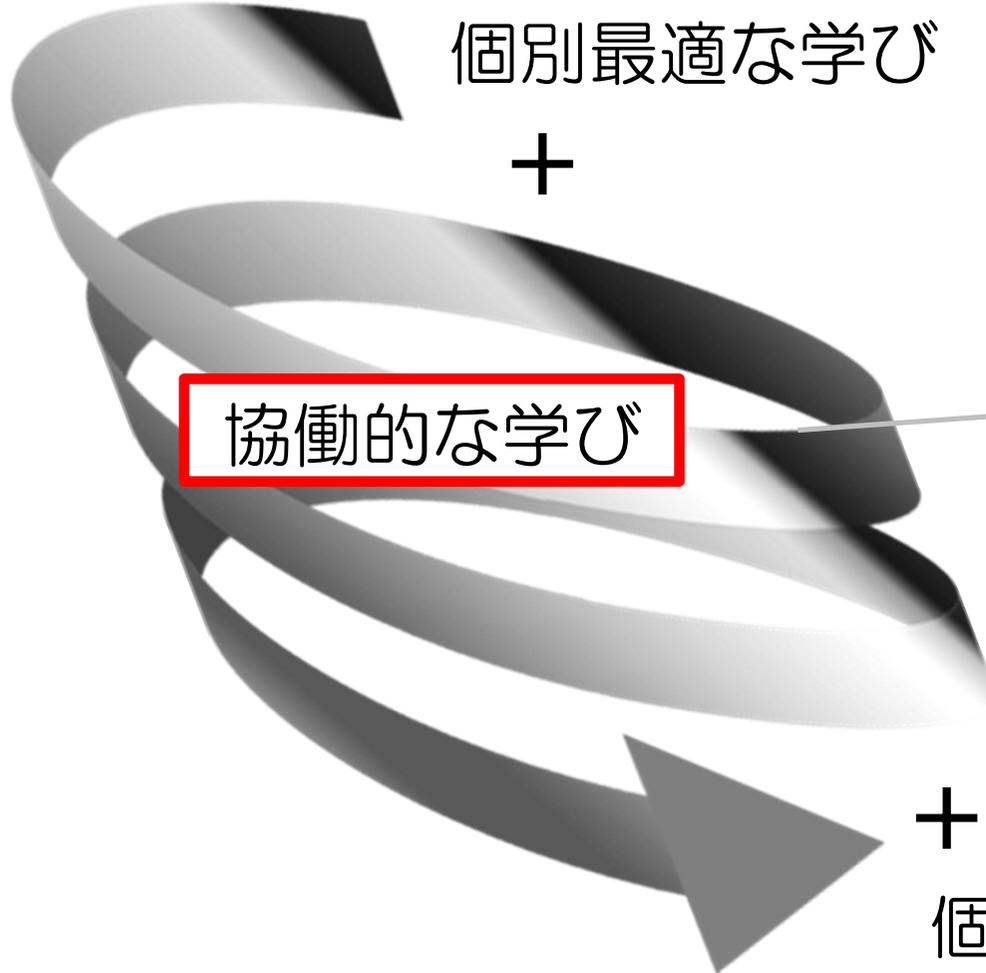
指導の個別化 学習の個性化

発達観点：社会性＝社会化＋個性化

socialization individuation



図表 社会性の発達とは
 Damon, W. (1983). Social and personality development. New York: W.W.Norton.



個別最適な学び

+

協働的な学び

個別最適な学びの充実に当たっては **それが孤立した学びに陥らないよう**, 留意する必要がある。個別最適な学びの成果を協働的な学びに生かし, さらにその成果を個別最適な学びに還元するなど **個別最適な学びと協働的な学びの往還を実現** することが必要である。(『中間まとめ』 p.15)

+

個別最適な学び



本日の内容

- ① 「個別最適な学び」の用語は必要か
- ② 「対話的な学び」が実施された中でさらに「協働的な学び」は必要か？
- ③ 「個別最適な学び」の英訳について

「対話的な学び」と「協働的な学び」との分別は？

(主体的・対話的で深い学び)

cooperative learning

対話的な学び



全体指導での対話的な学び



ペア・グループワークでの対話的な学び

協働的な学び



探究的な学び



STEAM

collaborative learning

個別最適な学び

対話的な学び
協働的な学び

Society 5.0

大学短大

小学校

個別最適な学び

中学校

協働的な学び

高等学校

『高大接続答申』 (2014年12月)
アクティブ・ラーニング
(= 主体的・協働的な学び)

本日の内容

- ① 「個別最適な学び」の用語は必要か
- ② 「対話的な学び」が実施された中でさらに「協働的な学び」は必要か？
- ③ 「個別最適な学び」の英訳について

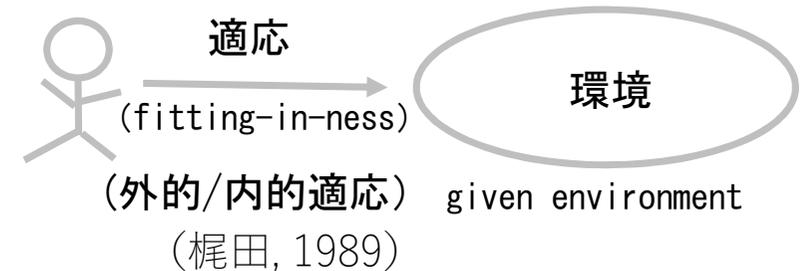
「個別最適な学び」の英訳について

① AIにおける個別最適化学習 adaptive learning (×)

ある基準を設けて統計的に最適化 (optimization) をはかるアルゴリズム
深層学習 (deep learning) と同じで、ここでの「学習」は教育における「学習」と同じ意味ではない

(心理学の伝統的な理解)

- 順応 (adaptation) = 外的環境への生理的な調節
ex. 暗闇の中で徐々に目が慣れる
寒暖に対して温度調節



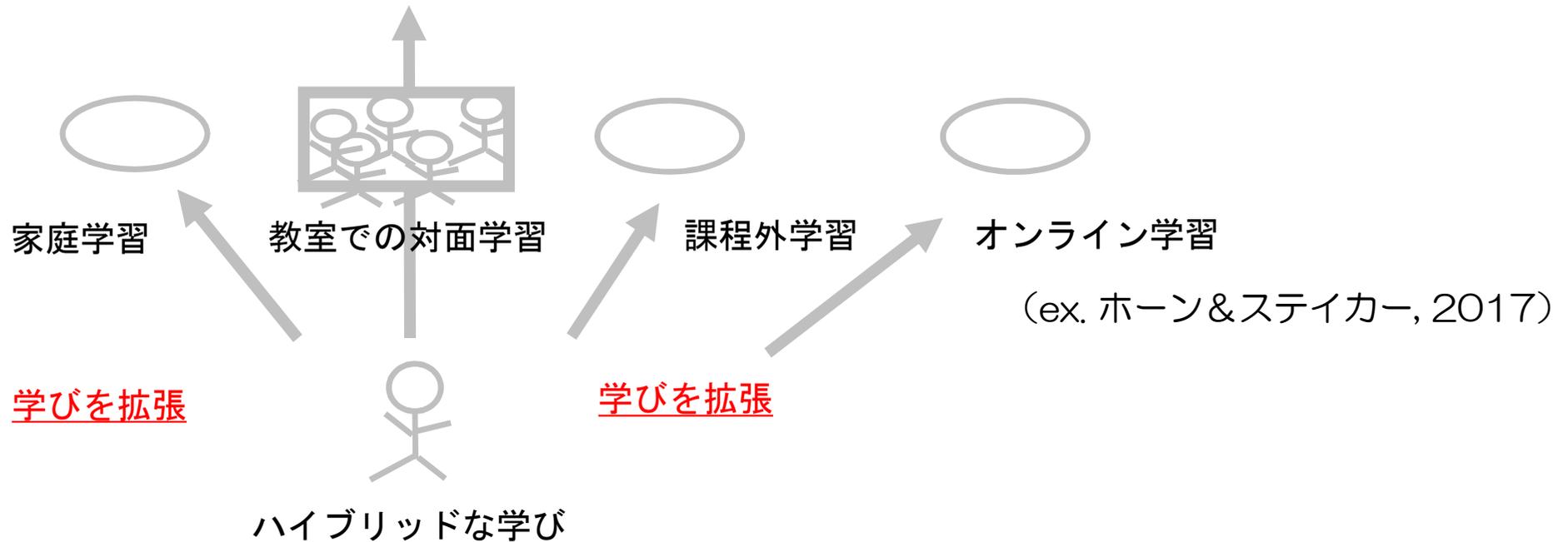
- 適応 (adjustment) (北村, 1965, オルポート, 1982)

- 用語だけで決定的な差を示せない例

ex) Savickas (1997) のキャリア・アダプタビリティ (career adaptability)

②個別な学び（個別化学習） personalized learning

Eラーニング（オンライン学習）、ブレンド型学習で多く用いられてきた用語



③個別最適な学び＝個別な学びを踏まえて自己調整学習を行うこと

子供たちの多様化が一層進む中で、全ての子供たちに基礎的・基本的な知識・技能等を確実に習得させるためには、ICTも活用して教師の負担を抑えつつ、専門性の高い教師がより支援が必要な児童生徒により重点的な指導を行うことなどにより効果的な指導を実現し、子供たち一人一人の特性や学習進度 学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うとともに、子供たちに自ら学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど**自らの学習を調整しながら**粘り強く取り組む態度を育成すること、つまり「**指導の個別化**」が必要である。

○また、基礎的・基本的な知識・技能や言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として専門性の高い教師が個々の子供に応じた学習活動を提供することで、幼児期からの様々な場を通じての体験活動から得た子供たちの興味・関心等に応じ、ICTも活用し、**自ら学習を調整する**などしながら、その子供ならではの課題の設定、子供自身による情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う等、主体的に学習を最適化することを教師が促す「**学習の個性化**」も重要である。

○以上の「指導の個別化」と「学習の個性化」を教師視点から整理した概念が「**個に応じた指導**」であり、学習者視点から整理した概念が「**個別最適な学び**」と考えられる。

- self-regulated learning (自己調整学習) (ジーマーマン他, 2014)
学習課題に能動的に関与するために「動機づけ」「学習方略」「メタ認知」を促す

ご清聴有り難うございます

- ① 「個別最適な学び」－新学習指導要領に関連づけて
- ② 「対話的な学び」と「協働的な学び」の分別について
- ③ 「個別最適な学び」の英訳について

参考文献

- オルポート, G. W. (著) 詫摩武俊・青木孝悦・近藤由紀子・堀正 (訳) (1982). パーソナリティー心理学的解釈ー 新曜社 (Allport)
- ホーン, M. B・ステイカー, H. (著) 小松健司 (訳) (2017). ブレンディッド・ラーニングの衝撃ー「個別カリキュラム×生徒主導×達成度基準」を実現したアメリカの教育革命ー 教育開発研究所
- 梶田叡一 (1989). 内面性の人間教育をー真の自立を育むー 金子書房
- 北村晴朗 (1965). 適応の心理. 誠信書房
- Savickas, M. L. (1997). Career adaptability: An integrative construct for life-span, life-space theory. *The Career Development Quarterly*, **45**, 247-259.
- ジーマーマン, B. J・シャンク, D. H. (編) 塚野州一・伊藤崇達 (監訳) (2014). 自己調整学習ハンドブック 北大路書房

